

# 令和7年度 学校自己評価システムシート (県立常盤高等学校) s 36

目指す学校像	豊かな人間性、確かな知識・技術を兼ね備えた看護のスペシャリストの養成
--------	------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びを促進する魅力ある授業を追求し、授業改善を推進することで、学力の一層の向上を図る。</li> <li>教職員一丸で社会の変化に対応できる教育活動を実践することで、心身ともにたくましく規律ある生徒を育成する。</li> <li>看護職への自觉を高めるとともに、看護師としての職業観・倫理観を育成するキャリア教育を推進する。</li> <li>地域・保護者・関係機関との連携強化と効果的な情報発信により、愛され信頼される学校づくりを推進する。</li> </ol>
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価						
年 度 目 標		年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>(現状) 一人一台端末の導入が3年目となり、看護科(高校生)全員がタブレット端末を所持することになる。今やタブレット端末は授業中の発表や協働学習のツールとして使用され、授業理解を実感する生徒も多い。また、一部の教科ではデジタル教科書を活用した授業も実施されている。</p> <p>(課題) 一人一台端末の環境により個別最適な学びや協働的学習等、新しい学習スタイルが可能となった。しかし、教員の活用状況には差が見られる。生徒の基礎学力の定着に向けた授業改善と教員のICT活用指導力の向上が不可欠である。また、生徒自身の学習時間の定着と自身を俯瞰する力を育て、看護師に求められる資質能力の向上に繋げていく。</p>	<p>○育てたい看護師像に向けた<b>学力定着と看護技術向上及び資質能力を育成する。</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業及び実習計画の精選と端末の効果的な活用と応用及び校内実習プログラムの構築の工夫、充実を行う</li> <li>②授業公開や研究協議の実施。また、端末を活用した授業公開やICT活用教員研修会を実施</li> <li>③生活実態アンケートの実施(年1回実施)</li> <li>④スタディサプリの導入(令和7年度)と活用状況の共通理解(令和7年度導入)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各教科・科目の授業で、シラバスや目標に近づく授業実践ができたか</li> <li>②ICT活用研修会の実施により、教員のスキルが向上し、授業改善に実践に生かすことができたか</li> <li>③生活実態アンケートにより、生徒自身が生活を振り返り、自己改善に向かうことができたか</li> <li>④学習時間の増加と生徒の授業に向かう意欲態度の向上や学びに向かう態度がみられたか</li> <li>⑤スタディサプリ活用に向けた共通理解が教員間で行われ、その活用が定着し、生徒の基礎学力向上につながったか</li> </ol>	<p>生徒アンケート(授業・生活)を実施(10月)。アンケート結果は概ね良好。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各学年毎のシラバス及び各科(看護科・看護専科)における臨地実習要項を冊子にまとめ、年度当初には生徒に活用及び評価方法について指導を徹底した。</li> <li>②教職員同士の学び合いが進んでいる。中でも看護教科では電子書籍の活用が進んでおり、教科書内の動画視聴や情報タイムリリー検索等を活用した授業を実践している。アンケート結果から生徒の主体的且つ共同的な学習を実現していることが見えた。</li> <li>③アンケート結果から、充実した学校生活を送っている生徒が多い(91.5%)。</li> <li>④本年度導入したスタディサプリの活用については、到達度テストの振り返りを課題を実施し、基礎学力の向上に繋がった。</li> </ol>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業が定着する中、教育の効率化と質の向上させるためには教職員のICTスキル向上が不可欠である。また、生徒のデジタルツールの活用方法や情報リテラシーを身につけさせる必要がある。</li> <li>・看護科において生徒にレポート作成を課すケースが多い。生成AIの急速な普及により、生徒の利用も見込まれる。そのため、より深い学びを促すための指導を検討していく必要がある。</li> <li>・専門科目の理解を支える基礎学力となる普通教科の強化が、生徒の進路選択を広げる鍵となる。スタディサプリの活用の効果的な活用方法について検証していく必要がある。</li> </ul>	<p>学校関係者評価 実施日 令和8年2月10日</p> <p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>専門性の高い看護教育を中心に、基礎学力から実践的な知識・技術まで、体系的かつ計画的な学習指導が行われている。ICTの活用や臨地実習を通じた学びは非常に効果的であり、生徒の理解度や到達度を意識した授業改善が継続されており、学習環境は概ね良好である。また、生成AIの活用には使わせない状況になく、これからはどのように活用していくかを議論していくべき。十分に協議して欲しい。</p> <p>アンケート結果の意見に指導の統一性を求める意見が複数ある。教員それぞれ指導感が異なるのは理解できるが、生徒への指示や連絡は共通理解をもって進めるべきである。</p>
2	<p>(現状) 生徒の多くは基本的な生活習慣が確立しており、落ち着いた学校生活を送っている。生徒会を中心とした学校行事が活発である。その一方で教育相談等、支援を必要とする生徒もみられる。各学年を中心に生徒へのきめ細やかな指導を実施している。</p> <p>(課題) 日頃から各学年を中心に、生徒の個に応じたきめ細やかな指導を進めている。しかし、高等学校進学時に進路を決定した生徒の支援は不可欠であり、そのために保護者との連携を積極的に行う必要がある。</p>	<p>○看護師として求められる<b>資質と社会性を育成するための教育支援を実施する。</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①教員の教育相談力の向上と組織体制の構築。また、生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境づくりを組織的に進める(教員アンケートの実施)</li> <li>②複雑化する医療業界への興味関心の向上</li> <li>③学校行事を通じて学校生活の充実と質の向上</li> <li>④生活実態アンケート及び保護者アンケートの実施(年1回実施)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒支援委員会を中心とした教育相談体制が構築できたか</li> <li>②面談や日頃から保護者との連携が強化されたか、一層の生徒理解に繋がったか</li> <li>③臨地実習や外部講師による授業・講演会等を通じて、視野が広がったと回答した生徒が80%以上いたか</li> <li>④学校行事や部活動を通して、学校生活の充実と連帯感を深められたか</li> <li>⑤生徒が安心して学校生活を送っていると回答した生徒・保護者が80%以上いたか</li> </ol>	<p>保護者アンケートを実施(12月)。アンケート結果は概ね良好。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒に関する共通理解が、多方面から生徒の指導を実現することができた。</li> <li>①本年度、看護科全員の保護者面談をしたことで保護者からの満足度も高く(91.5%)、一層の生徒理解と適切な生徒指導につなげることができた。</li> <li>②学校以外の資源(各種実習生、外部講師、連携大学院等)から学ぶ機会が本校では多数ある(進路指導計画)。その満足度は高い(91.4%)。</li> <li>③学校行事や部活動等で好ましい友人関係を築いている生徒が多く、学業にも切磋琢磨している様子が見える(96.1%)。</li> <li>④「入学させて良かった」と回答した保護者98.8%であった。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度6月、看護科において全保護者との面談を実施した。課題を負担と感じる生徒が少なくなく、また将来看護師として必要とされる多様なスキルが求められる中、家庭と協力して生徒のケアに当たることができた。保護者の満足度も非常に高いものがあった。保護者の学校理解にもつながるものとなったと感じている。</li> <li>・生徒会や自治会の役員を中心とした学校行事が活発である。様々な活動を通じて、同じ目標を持っているからこそ切磋琢磨しながら、次の活動へつながる学びを得ている。</li> </ul>	<p>生徒は落ち着いた態度で学校生活を送っており、規律やマナーも適切に保たれている。教職員による丁寧な声掛けや見守りが行き届いており、生徒や保護者が安心して学校生活を送る環境が整備されている。また、「今どきの子ども」の理解には、保護者との連携が欠かせない。引き続き連携を深め、生徒に寄り添った指導をお願いしたい。</p>
3	<p>(現状) 看護師国家試験の合格率は高い水準を保っている。日頃からきめ細やかな指導を行っており、卒業後の進路選択(大学編入や看護関連資格取得をめざした専門学校への進学)も多様化しつつある。</p> <p>(課題) 看護師国家試験の合格はもちろん、多様な進路実現にも対応するためには、基礎学力と学習習慣の定着が必要である。そのためには、看護科(高校)からの計画的な学習指導・キャリア教育が必要である。5年一貫教育のメリットを活かした段階的な学びと支援を意識した指導を実施していく必要がある。</p>	<p>○目指す看護師像の<b>追求及び看護師国家試験合格と多様な進路にも対応した進路実現を目指す。</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「進路の手引き」を活用した進路指導を看護科低学年から実施</li> <li>①看護科と看護専科が共に進路指導部と連携し、修了後を見据えた進路対策及び看護師国家試験対策を組織的に行う</li> <li>②キャリアプロジェクトにてポートフォリオを作成し、「なりたい看護師像」の自己形成を支援</li> <li>③病院説明会や進路講座、修了生懇談会等を通じて、生徒の幅広い進路選択の一助となるための進路指導を実現</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①効果的な進路行事を提供し、生徒及び保護者の理解を深めることができたか</li> <li>①高い看護師国家試験合格率と進学希望者の進学実現を達成できたか</li> <li>②キャリアポートフォリオを作成し、各自が納得いくものになったか</li> <li>③進路行事や講演会等の参加によって、生徒のキャリアアップにつながったと回答した生徒が80%以上いたか</li> </ol>	<p>5年一貫教育を段階的にとらえ、継続した教育展開を実施している。継続期である看護科1・2年次から目指す看護師像の実現に向けてポートフォリオの作成を計画的に実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①看護科から様々な講座(マナー講座、コミュニケーション講座、修了生との座談会等)を計画的に実施し、早期から進路意識を高めた。</li> <li>①教員のチューター制(学生への個別サポート)の導入により個に応じた指導を実施した。また、学生による国試対策委員会を機能させ、チーム常盤として合格を目指す体制をつくった。</li> <li>②計画的なデジタルポートフォリオの作成と進路指導に関する保護者の満足度94.5%であった。</li> <li>③進路行事や講演会等の参加によって、生徒のキャリアアップにつながったと回答した生徒 90.5%であった。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年一貫の特色を活かし、計画的かつ丁寧な進路指導を引き続き実施していきたい。各学年でポートフォリオを作成しており、自己形成に大いに役立っている。</li> <li>・20回生は第一希望の就職先に9割が内定している。年間を通して看護師国家試験全員合格に向けた指導をしているが、引き続き教員間の連携を深め、より効果的な指導を展開していく必要がある。</li> </ul>	<p>明確な進路目標があるからこそ、その実現に向けた計画的かつきめ細やかな進路指導が行われている。就職・進学ともに安定した実績があり、生徒の希望や適性に応じた指導体制が適切に機能している。</p> <p>また、早期に「看護師」を志す意志を持った生徒の指導は、想像以上に難しいものと察する。多様な生徒の対応にも一人ひとりの個性を大切にしたい教員の努力に感謝するとともに、引き続き指導していただきたい。</p>
4	<p>(現状) 臨地実習病院や大学や病院関係者の協力により、専門性の高い教育活動が推進されている。県内の各中学校から看護師を目指す生徒が入学している(R7入試1.19倍 R6入試1.14倍)</p> <p>(課題) 少子高齢化に伴い、医療・介護需要が高まる中、看護師の出入不足が社会問題になっている。県内唯一の看護専門学校としての本校の使命を果すためには、将来地域域の保健に貢献する看護師の育成を使命としており、看護の魅力発信を積極的に進める必要がある。</p>	<p>○保護者・地域・関係機関との<b>連携を密に行い、本校理解のたどる工夫改善することで生徒募集に繋げる。</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校説明会の実施内容を見直しと工夫</li> <li>①外部向けイベントへの積極的な参加と新たに小学校等に向けた広報活動等を実施</li> <li>②本校の現状と課題を全体で共有し、改善策を考察することができたか</li> <li>②保護者アンケートにより、客観的な評価や課題解決のための意見を教育活動に繋げることができた(保護者アンケート肯定的意見80%以上)</li> <li>③学校ホームページ更新と新たにインスタグラム等のSNS発信の開設により本校の魅力発信を積極的に行う</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校説明会・体験入学の参加者が昨年度よりも増加し、満足度の高いものであったか。また志願者数は増加したか</li> <li>①全教職員はもちろん、生徒の協力を得ながら組織として生徒募集業務を実施したか</li> <li>②新たなSNS発信の開設と学校ホームページの見直し及びブログ更新を積極的に行ったか</li> </ol>	<p>校内外の説明会や中学校への学校紹介に積極的に参加し、学校HP及び新規SNSを積極的に活用した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校説明会・体験入学には、教職員が一丸となって取り組む柔軟に対応した。また、生徒会の発表や生徒が作成した成果物展示は参加者からも大変好評であった。参加者には小学生からの参加もあった。</li> <li>②保護者アンケートでは、学校への満足度は90.0%であった。昨年度からの意見を検討し、改善に取り組んだ。</li> <li>③常盤ブログ及び校長ブログをほぼ毎日更新。さらに新設したSNSでは担当する教員が生徒と協力しながら発信し、広報活動を積極的に行った。</li> <li>③保護者に学校一斉メールを徹底し、状況に応じた文書配布とメール配信を行的確な情報発信を行った。保護者の満足度98.1%であった。</li> </ol>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化で医療ニーズが増加する中、看護師不足が懸念されている。本校のスキルミッションを再確認し、今後も積極的に本校の魅力アピールしていきたい。しかし、小学生に向けた生徒募集活動は思うように実施できなかった。今後は広報活動について検討していきたい。</li> <li>・保護者からの意見を真摯に受け止め、教育活動の改善を生かしていきたい。</li> <li>・引き続き、生徒の活躍を外部に情報発信することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに本校の魅力アピールしていく。</li> </ul>	<p>アンケート結果から見て、保護者との情報共有や連携が適切に行われており、学校の教育方針や取組について理解と協力が得られていることが理解できる。また、地域や医療機関との連携も本校の特色として活かされている。その一方で、地域連携についてはもっとPRを進めると良いのではないかと、例えば、生徒の意見を確認しながらはいるが、「看護師の卵」として生徒が各種ボランティアや地域活動に参加したり、意志ある生徒だからこそ、社会に与える影響を大きくしたいと、常盤生のパワーを外部に発信することで、社会に与える影響を少なくない。看護師育成の唯一の専門高等学校である強みをもっと活かして欲しいと、今後の生徒募集の戦略を期待している。</p>